

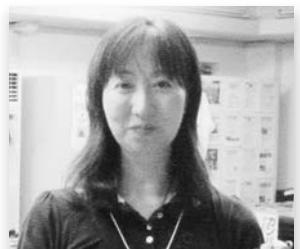
パネリスト（宮城県から）

齋藤 緑さん
災害FM「ひととじラジオ」アナウンサー

宮城県山元町にお住まい

の齋藤さん。

今回で、3度目の来足となりました。



これから、自分の住むまちをどんな

まちにしたいかという質問に「三元町

に人を留めたい、人にやさしいまちが

くりを提案して行きたいです」と話を

れました。

(Mi.K)

規模がまったく異なり、これは阪神淡

路のようにはいかないと思いました。

そこで、現地へお金を送る方針

を立てました。次に、神戸に避難して

きた人々のために、安心して暮らせる

物的環境を整える」とをしました。

そして、もう少し広い視野から見られる

グループと組んで、できる」とをやる

方針を3番目に立てました。

神戸の経験を伝えたいという思いで、

大槌町に入り、そこに残っている人と

人のつながりを作りました。支援され

る立場の人々が、支援する側に立った

時、大きなパワーになることを経験か

ら感じていたので、自立支援とは何か

ということを仮設住宅の人々に説き続

けました。

阪神淡路と同様に、男性の中には、

何をすべきか見いだせず、お酒で命を

落とす方が出てきたため、これを何と

かしなければと思いました。

阪神淡路大震災の時、私は早瀬さん

区を拠点に、地域社会のために、何かができる活動体



パネリスト（神戸市から）

中村 順子さん
NPO法人「コミュニティ・サポートセンター」神戸理事長

フォーラムに参加して
会場アンケートより（一部抜粋）

●私たちの日頃の活動に役立ちそうな

アイディアがポンポン飛び出してき

ました。さすが、第一線で活躍して

いる人たち。ノウハウをたくさん持

っている様子で、もっと聞きたいと

ここで終わってしまいました。

●思つた以上に勉強になった。全国か

らの取り組みを、もっとたくさんの人

で聞きたい。

●内容が濃く、勉強になりました。自

分ができる事を見つめなおし、頑張

ります。パワー頂きました。

●早瀬さんの講演を聞きましたが、お

もしろく、わかりやすく、感動しま

した。中村順子さん、こんなに強く

活動されている方がいらっしゃるの

を知りました。

●内閣府と同様に、男性の中には、

何をすべきか見いだせず、お酒で命を

落とす方が出てきたため、これを何と

かしなければと思いました。

新しい共助のスタイル

また、復興計画を作る場合、出席者は

は男性が大半を占め、意思決定の場に

アンバランスを感じたため、女性や若

者など行政の手が及ばないメンバーを

集め、その意思が反映される取組みを

進めました。

地域の中に自分の出番を持つこと、

居場所と役割があること、これが新しい共助のスタイルだと思います。

(Ma.O)

＊＊＊編集後記＊＊＊

東日本大震災時に、それぞれの繋がりの中で活躍された様子が伝わってきました。女性の力強さに目が覚める思いです。強い絆の中で、人と人がお互いを尊重し、理解し合い、納得がいくまで話し合い、新しいまちづくりと元気な復興が進むことを願っています。

(Mi.K)

援してくださる方に、頑張っている姿を見てもういたいので、発信して行こうと思います。

東日本大震災

あの時、自分には何ができるのか、一人現地へ行ってみたのですが、災害